質問状への「回答」に対する公開質問状

東京大学総長選考会議
議長 小宮山 宏 殿

まず、われわれの質問状に対し、一定の回答がなされたことについて感謝します。そのうえで、貴職の回答はわれわれの疑問に十分に答えていないため、公開質問状というかたちでその点を明らかにするとともに、再度、総長選考プロセスの透明性と公平性の回復をただちに求めます。事態の緊急性に鑑み、2020年9月28日（月）12時までに、下記連絡先宛での電子メールでご回答いただくことをお願い申し上げます。以下、最初の質問状の番号（それに応じた回答の番号）に沿って質問いたします。

1. 質問状で下線が引かれて強調されている「5名まで推薦可能であるのに、なぜこのように偏向した少人数の人選を行なう必要があったのでしょうか」という問いにこの回答は答えていません。「求められる総長像に照らして最良の候補者を選出する」ためには、まず意向投票で本学全教員の意思を問うべきであり、総合大学としてそのための選択肢はより多く示されるべきではないでしょうか。貴職名の回答には「候補者を3名にすることに関しても、総長選考会議で十分に討議した上で合意したものです」とありますが、信頼できる情報によれば、候補者を「3名以上5名以内」とする今回の内規改正については、明確な根拠を会議で示された覚えがなく、「幅をもたせるため」といった漠然とした理由しかなかったとのこと。過去の規定が「5名程度」であったことを踏まえれば、「幅をもたせるため」であれば、「3名以上7名以内」でも良いはずのところを、なぜ「3名以上」と数を減らす可能性を下げたのか、その理由について、総長選考会議における議論を明確に開示していただけますか。

2. 「第2次候補者に選出されなかった方々への配慮から」氏名は公表しなかったとありますが、代議員は教職員の代表ですから、その投票結果については（票数や順位は別としても）、少なくとも氏名を教職員全員に公表するのは当然ではないでしょうか。逆に、もしこの論理でいくとすれば、第2次候補者についても「最終的に総長に選出されなかった方々への配慮から」最後まで外部には公表しないのが筋ではないでしょうか。それを10月2日に公表するとしているのは矛盾ではないですか。すなわち、「第2次候補者に選出されなかった方々への配慮から」とは根本的な理由には思えません。また、「今回の第1次総長候補者の方々にも、氏名は公表しないことをお知らせした上」とありますが、このように「公表しない」旨は総長選考会議規則や内規には規定されておられません。さらに、われわれが得ている情報では、第1次総長候補者に対し「氏名は公表しないことをお知らせした」事実はありません。いずれにしても、ではなぜ、現在の総長選考会議ないし貴職はみずからの権限において「公表しない」という決定を行なったのか、その理由をお示しください。「過去の選考においてもその人数・氏名は公表していません」とありますが、これを悪しき慣例として、今回は公表することをわれわれが求めているのは、質問状の1の項目で指摘したように、第2次候補者の選定過程に対する深い疑義ゆえです。については、総長選考会議の権限において決定できるはずの第1次候補者の氏名開示を改めて要求します。その際、「氏名は公表しないことをお知らせした上」であるならば、総長選考会議の責任において、第1次候補者おひとりおひとりの許可をいただければ済むことではないでしょうか。

3. この回答は、前回の総長選考までは氏名を公表していたのに今回は公表していないことの理由に

はなっていない。また、「学外の意見等を取り入れる環境に対応することはないと判断し」とありますが、氏名の対外的公表は「学外の意見等を取り入れる」ためではなく、あくまでも選考過程の透明性の確保のために求めているものです。また、「学外の意見等を取り入れる環境に対応することはないと判断」したのがどなたであるのか、主語が明確ではありません。選考会議において合意の上ででしょうか、それとも議長の独断でしょうか。繰り返しますが、質問事項3への回答は回答になっていないため、「第2次総長候補者の氏名」についてまで「取扱いにご留意願います」と、箝口令を思わせる措置を取る理由は何なのか、説明してください。

4. 貴職とわれわれとのあいだには総長選考の「透明性・公平性」をめぐる認識の大きな違いがあるように思われます。たとえば、質問状の3で問題にしたような措置をわれわれは明確に「透明性」に反する行為だと考えます。だからこそ、「いったいどのような「所要の見直し」により、どのように「透明性・公平性」が高まったと判断しているのか、具体的に説明していただけますか」とお訊ねしました。しかしながら、貴職の回答は、現在にいたるまでの総長選考に関する検討プロセスとそれが4月28日に開示された事実を述べているだけで、これもまたわれわれの問いに対する答えになっておりません。このままでは、総長選考会議が主導する総長選考は、われわれが「透明性・公平性」と考える基準からますます遠ざかってしまいかねないという大きな危惧を覚えます。ですから、どうか貴職のお考えになる総長選考の「透明性・公平性」とはいったい何であり、たとえば4月における内規改正のいったいどれが「透明性・公平性」を高めるための「所要の見直し」なのかをお答えいただけないでしょうか。

最後に、われわれの質問状を「より一層透明性のある選考とするためのご提言」「より良き総長選考の在り方への提言」と受け止めていただければ、総長選考会議の権限で、議長のご英断により、その提言をただちに現在進行している総長選考のプロセスに反映させていただけないでしょうか。そのための時間はまだ十分にあると考えます。4月28日の文書で貴職は「社会からの期待に応えられるよう、東京大学の良識や伝統に則して、各構成員の真摯な行動により、総長選考が適正に実施されなければならないと考えております」と書かれました。われわれは「東京大学の良識や伝統」を信じるがゆえに、真摯な気持ちで先の質問状とこの公開質問状をまとめました。議論はすでに社会に開かれております。貴職の真摯なご回答を切に希望しております。

2020年9月23日

東京大学教員有志

代表 田中 純 (総合文化研究科)
阿部公彦 (人文社会系研究科)
佐倉 統 (情報学環)
清水晶子 (総合文化研究科)
水越 伸 (情報学環)
山田広昭 (総合文化研究科)

連絡先：田中 純

2020sochosenko.frage@gmail.com